

大雨や台風の気象情報に注意して 早めに防災対策・避難行動を！

これから梅雨や台風の襲来等により、土砂崩れや河川の氾濫など災害が発生しやすい時期を迎えます。

薩摩半島南部に上陸し、犠牲者48名をだした平成5年9月の『台風第13号』、九州南部を中心に甚大な被害をもたらした『平成5年8月豪雨』、川内川流域で1500棟が浸水した『平成18年7月豪雨（いわゆる、鹿児島県北部豪雨）』、そして、平成22年10月の奄美豪雨災害など、災害はいつ発生するか分かりません。日頃から災害に対して備えておきましょう。

災害から身を守るために大切なことは、早めに避難することです。日頃から避難場所や避難経路を確認し、テレビやラジオ、インターネット、防災行政無線などからの気象情報に注意する習慣をつけ、危険を感じたり、避難指示などがあったときのために貴重品や非常持ち出し品を持って安全な場所へ避難できるよう備えておきましょう。

また、避難するときは単独行動をなるべく避け、隣近所の人と協力しながら安全な場所に避難しましょう。

土砂災害

雨が1時間に20ミリ以上降ったり、降り始めてからの雨量が100ミリを超えたときは危険信号と言われています。家の周辺の山やがけに危険な前兆現象がないか確認し、災害発生のおそれを感じたら、早めに安全な場所へ移動しましょう。また、土砂災害は、雨が降り止んだ後でも発生するおそれがありますので注意しましょう。

土砂災害には、次のような前兆があります。

- がけ崩れの前兆
 - ・ がけからの水が濁る。
 - ・ がけに亀裂が入る。
 - ・ 小石が落ちてくる。
 - ・ がけから音がする。



- 土石流の前兆
 - ・ 山鳴りがする。
 - ・ 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
 - ・ 川が濁ったり、流木が流れる。

- 地すべりの前兆
 - ・ 地面にひび割れができる。
 - ・ 井戸や沢の水が濁る。
 - ・ 斜面から水が噴き出す。
 - ・ 建物や電柱、樹木が傾く。

集中豪雨

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る雨のことです。梅雨の終わりによく起こります。狭い地域で突発的に降るため予測は困難です。気象情報(雨量)などに注意して自主的な避難を心がけ、また、役場からの避難勧告などがあった場合は、速やかに避難しましょう。

避難は早めに

避難情報などの呼びかけがあったときは、火元の確認をし、事前に準備した非常持ち出し品や貴重品を持って避難しましょう。避難するときは、なるべく単独行動は避け、近所で声を掛け合い協力し合って、早めに避難しましょう。妊産婦や乳幼児、高齢者や障がい者など『災害時要援護者』は避難情報がでてからでは避難行動が間に合わないこともあります。また、1人暮らしの高齢者に対しては避難情報が伝わりにくいという問題もあります。異常を感じたときは、隣近所で声を掛け合い協力しながら災害時要援護者を避難所へ誘導しましょう。



【大崎町避難所一覧表】

避難場所	収容人員	電話番号	避難場所	収容人員	電話番号
大崎町中央公民館	100人	476-0548	中沖地区公民館	30人	477-2181
大崎町保健センター	50人	476-1111	持留地区農業構造改善センター	50人	476-1569
大崎小学校	100人	476-0027	持留小学校	100人	476-1722
老人福祉センター	50人	476-3663	野方小学校	100人	478-2005
大崎中学校	100人	476-0013	野方農村環境改善センター	50人	478-3869
大丸小学校	100人	476-0044	旧大崎第一中学校	100人	-
旧菱田中学校	100人	-	野方地区活性化センター	50人	-
菱田小学校	100人	477-0504	道の駅くにの松原おおさき	300人	471-6666
菱田農村環境改善センター	50人	477-1668	大崎町総合体育館	600人	477-2006
中沖小学校	50人	477-0710			